



TITLE:

米國ノ戰時海運政策(二、完)

AUTHOR(S):

岸本, 熊太郎

CITATION:

岸本, 熊太郎. 米國ノ戰時海運政策(二、完). 經濟論叢 1918, 6(4): 584-587

ISSUE DATE:

1918-04-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127355>

RIGHT:

京都帝國大學法學大科大學

經濟論叢

第六卷 第四號

大正七年四月一日發行

論說

『座』ノ研究(再ビ).....

文學博士

三浦周行

農會瑣言.....

法學博士

財部靜治

京都ニ於ケル舊時ノ搥屋仲間.....

法學士

本庄榮治郎

營業稅ノ課稅標準(二)完.....

法學博士

神戶正雄

Unto this Lastヲ讀ム(一)完.....

法學博士

河上肇

職工組合論(二).....

法學士

河田嗣郎

我國^{ニ於ケル}營利心ノ起源及發達(三).....

文學士

銅直勇

時事問題

米國禁輸問題ノ解剖.....

法學博士

神戸正雄

勸業及農工銀行ノ合併ニ就テ.....

法學博士

戸田海市

雜錄

大阪市ニ於ケル窮民ノ家計(一).....

法學士

柳田民藏

續獨逸經濟學界近況(二).....

文學士

米田庄太郎

物價卜割引歩合トノ平行.....

文學士

高田保馬

米國ノ戰時海運政策(三)完.....

法學士

岸本熊太郎

米國ノ戰時租稅法(二).....

在米

阿部賢一

帝國統一後ノ獨逸ノ植民的活動(上).....

文學士

山本美越乃

米國ノ戰時海運政策(二、完)

岸本熊太郎

三、船舶院設立ヨリ現時ニ至ル
マデノ海運

曩ニ船舶法ニ依リテ設立セラレタル船舶院ハ委員ノ任命ト共ニ漸ク活動ヲ開始シ法律上與ラレタル權能ヲ實行スベク本年四月十七日造船部 (Construction Agency) ヲシテ臨時造船會社⁽¹²⁾ヲ設立シテ船舶院ノ委員 同時ニ此ノ會社ノ重役 (Directors) トナリ船舶院總裁⁽¹³⁾ハ同時ニ其ノ會社ノ社長 (President) トナリ新ニ全責任ヲ以テ造船事務ヲ實行スベク總支配人 (General Manager) トシテ曩ニばなま運河開鑿ヲ以テ有名ナルビーターなる將軍 (General Goethals) ヲ任命シタ當時最初ノ船舶院總裁ニシテ會社ノ社長デアリシでんまん (William Demman) 氏ハ初メ本年十月マデニ千艘ノ木造船 (總噸數二百萬噸) 建造計畫ヲ發表シタガ米國人中ニ於テモ其ノ不可能ナルコトヲ信ズルモノガ少クナカツタ然ルニ一方會社總支配人タルビーターなる將軍ハ亞米利加ノ國防上ノ將來ヲ考ヘテ木造船ノ效力ヲ疑ヒ鋼製船舶建造ノ有利ナルコトヲ宣言シタルノミナラズ十八ヶ月以内ニ鋼鐵船三百萬噸ヲ建造スル豫定ナル

コトヲ發表シタ茲ニ於テ端ナクモ両氏ノ意見ガ扞格シ木船論對鋼船論ノ問題ヲ生ジ世論囂々トナツタガ遂ニ大統領ウゐるそん氏ハ七月ノ末⁽¹⁴⁾時局ニ鑑ミ爭論ノ中心人物ビーターなる氏トでんまん氏ニ辭職ヲ勸告シ遂ニ船舶院ハ改造セラレテきやつぶす提督 (Admiral Capps) ヲ新ニ會社ノ總支配人ニ任命シ市俄古ノえぞわーど・はーれー (Edward N. Hurley) 氏ヲ船舶院總裁ニ任命シタ此ノ以後米國ノ造船作業進行ノ道程ハ十分公衆ニ分ラナクナツタガ其後米國ニ於ケル諸雜誌及議會ノ演說等ヨリ得タル斷片的ノ知識ヲ綜合セバ其ノ行程ノ一班ヲ窺ヒ知ルコトハ左ノミ難事デハナイノデアル⁽¹⁵⁾

本年ノ九月初旬迄ニ米國ノ政府ガ船舶院ニ割リ當テラ了シタル總金額ハ八億弗デアツテ内五千萬弗ハ前掲法律ニ依ル創立費ニシテ五億弗ハ造船資金、二億五千萬弗ハ船舶徵收ニ關スル費用デアル此ノ費額ハ曩ニでんまん、ビーターなる両氏時代ニ六月ノ十五日緊急補充令⁽¹⁶⁾ニ依リテ許サレテイタガ新總裁ニ至リテ更ニ最近閉會ニナ

(12) Emergency Fleet Corporation
 (13) Chairman of the U. S. Shipping Board.
 (14) The Traffic World July 28, 1917 p. 214.
 (15) The Economist Sep. 8, 1917 p. 353.
 (16) Urgent Deficiency Act of June 15.

リシ議會ニ對シ九億一千五百萬弗ノ請求ヲ爲シ
議會ハ九月二十五日約十億弗ノ費額ヲ議決シテ
船舶院ノ造船計畫ヲ一層擴大スベク要求シタ之
ガ第二ノ緊急補充令トナツタノデアル即チ米國
議會ハ船舶院設立以來茲ニ約十八億弗ノ造船費
額ヲ割當テタモノト云ツテ宜イ然ラバ斯カル
龐大ナル費用ヲ割當ラレタル船舶院ハ噸數ニ於
テ如何程多クノ船ヲ建造シツツアルカヲ見ルニ
本年六月三十日現在ニ於ケル米國船舶總噸數ハ
八百八十萬噸デアツテ此ノ内譯ハ外國貿易ニ從
事スルモノ二百四十二萬二千噸五大湖上ヲ運航
セルモノ二百七十萬一千噸國內河川及沿岸貿
易ニ從事セルモノ三百六十萬七千噸デアル之ヲ
千九百十四年ノ六月三十日現在ニ比スルニ總噸
數ニ於テハ八十七萬三千噸ヲ増シ外國貿易ニ從
事スル船ニ於テ殆ンド二倍半ヲ増加セタルモ湖
上ヲ運航スル船ノ總噸數ハ約十萬噸ヲ減ジ沿岸
貿易ニ於テハ總噸數ニ於テ三十六萬噸即チ約一
割ヲ減シタ而シテ此數字ハ一たる將軍及でん
まん氏辭職以前ノモノデアツテ兩氏ガ辭職當時

ニ於テモ已ニ新ニ木船及鋼製船ヲ併セテ約百八
十萬噸ノ造船契約ガ出來テ居リ尙兩氏辭職後八
月五日ニ新總裁ハ命令ヲ發シテ亞米利加造船所
ニ於テ建造中ノ外國人ノ船舶ヲ徵收スル旨ヲ發
表セル事實トヲ照合セバ現在ニ於テハ尙幾分増
加シ居ルコトハ明カデアル依テ前記六月三十日
ノ外國貿易ニ從事セル噸數二百四十萬噸ニ獨
ノ船舶約七十萬噸、造船契約ヲ了シタルモノ約
三百二十萬噸之ニ造船中ノモノヲ徵發シタル噸
數二百五十萬噸ヲ加フレバ約八百八十萬噸トナ
ル而シテ船舶院ハ此事業ヲ明年ノ末マデニ完成
スベキ旨ヲ發表シタ⁽¹⁷⁾然シ其完了ノ時期ニ於テ
ハ識者ノ間ニ疑ヲ插マレテ居ル點ガアル即チ亞
米利加ノ造船能力ハ造船中ノ徵發ハ別トシテ來
年ノ末迄ニ恐ラク三百萬噸ヲ新造スレバ大成功
デアロウ何トナレバ近時造船所ニ於ケル勞力ノ
不足ハ却テ益々之ヲ不可能ナラシムルト云フ
ノデアル⁽¹⁸⁾併シ假リニ來年ノ末迄ニ新ニ二百萬
噸ヲ建造スルトスレバ航洋船ハ約四百五十萬噸
トナリ之ニ沒收、徵收シタル外國內國船ヲ內輪

(17) The Economist. Sep. 22, 1917 p. 417. American Shipbuilding ニ依レバ此ノ金額ハ英國ニ於テ現今造船價額ノ騰貴ヒル今日ニ於テモ約總噸數六百二十萬噸船舶ヲ建造シ得ベトシ云フ

(18) The Traffic World Sep. 29, 1917 ニ依レバ來年中ニ九百二十萬噸ト稱シ The Economist Sep. 22, 1917. ニ依レバ來年六月三十日迄約千噸噸完成ノ企圖ナリト

(19) The Economist Sep. 22, 1917 カ援用セル New York Commerce and Finance ニ依レバ米國ニ於ケル造船能力ハ本年ハ年百五十萬噸來年ヨリハ年二百萬噸ノ割合ヲ以テ進行シ得ベシト

ニ見積ツテ加ヘテモ、全體ニ於テ總噸數七百二十萬噸ハ下ラナイデアロウ。而シテ之ハ直ニ外國貿易(大洋)ニ從事シウベキ噸數デアルコトヲ記憶セネハナラヌ然シ戰爭ハ現ニ行ハレテ居ル米國タルモノ何トカ工夫ヲシテ差シ當リ目下其物資、兵站、兵員ヲ佛國其他ニ送ラ予バナラヌ夫レニハ船腹ノ問題ヲ解決セネバナラヌ、八月初旬造船中ノ外國船ヲ徵收スル命令モ又前月即チ七月ニ發セシ鋼鐵禁輸命令モ此ノ船腹ヲ得ンガ爲メニ或ハ直接ニ或ハ間接ニ中立國其他ヨリ船ヲ提供セシメン爲メデアル、尙九月二十八日下院ハ戰爭ノ續ク間及戰爭後モ數ヶ月間ハ自國ノ沿岸貿易ヲ外國船ニモ許スコトノ法律案ヲ議決シ之ハ上院ヲ通過シテ十月六日法律トナツテ居ル願フニ今日迄百餘年間自國ノ船舶ニ限リ與ヘシ此ノ特權ヲ撤廢シタノハ以上ノ事情ノ下ニ沿岸貿易ニ從事セル米國船ヲ大洋航海ニ振リ當テル爲メデ誠ニ已ムヲ得サル處置ト考ヘラレルノデアル尙十月十五日ニ重量噸二千五百噸以上ノ米國船舶ヲ悉ク政府ノ用ニ徵收シ傭船料⁽²⁰⁾ヲ

定メタノヲ以テ見レバ又以テ戰爭ニ全力ヲ盡サントセルコトヲ知ルコトガ出來ル願フニ參戰ノ結果刺戟サレテ之ニ至ツタトハ云ヘ我國ノ對岸ニ此ノ新進海運國ノ急ニ勃興スルヲ見テ我造船海運業者ニ於テハ須ラク十二分ノ用意ヲセ子バナラヌコトヲ注意シタイト思フ(六・一一・二五)

(20) 沒收セラルルモノ前掲七十萬噸徵收セラルルモノハ二百萬噸ト見ル二百萬噸ノ數字ハ The Economist.ニ依ル

(21) 傭船料ノ詳細ニツキテハ The Traffic World Oct. 6, 1917 p. 722 ナ見ルベシ貨物船ニシテ最高一ヶ月重量噸ニツキ七弗七十五仙ナリ